

第 1 回 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 議事要点

区分	内容
委員長・副委員長・職務代理者の選出	委員長：郡嶋孝（同志社大学経済学部教授） 副委員長・職務代理者：中村貴子（京都府立大学生命環境科学研究科専任講師） 副委員長：清水幸治（京都府立田辺高等学校教諭）
会議の公開	会議は全部公開 傍聴者の定員は 10 名程度 会議結果の公表は 1 か月以内に要旨を市のホームページに掲載
産業振興ビジョンの策定方針	本市の持続的な発展のため、中長期的視点のもと、市民、企業、行政、関係機関が共有する市産業の目指すべき姿とその実現に向けた重点施策を示す。
策定スケジュール	平成 26 年度、平成 27 年度の 2 カ年で策定 ＜平成 27 年度のスケジュール＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月 産業振興ビジョン推進委員会設置 ・ 5 月～平成 28 年 2 月委員会により審議 ・ 12 月 パブリックコメント ・ 平成 28 年 3 月 ビジョン完成・周知 ・ 平成 28 年 4 月 運用開始
京田辺市の現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 12 年から平成 21 年の 10 年間で、市役所周辺と大住工業地区において約 10ha の市街化区域が増加。商業系の用途地域が増加。 ・近鉄京都線、JR 片町線（学研都市線）の鉄道が通り、市内中心部からは京都市内に約 25 分、大阪市内に約 45 分と、各都市へのアクセスが良好 ・第二京阪道路の開通、新名神高速道路の建設が促進、京都縦貫自動車道の開通予定 ・平成 6 年から平成 22 年までの市域の交通量は増加。特に、国道 307 号、生駒井手線の交通量が増加。 ・従来の八幡木津線の交通量が減少（交通が分散） ・人口は、依然として増加傾向で推移。平成 37 年頃まで増加する見込み。 ・関西の市（111 市）における人口増加率、世帯増加率、京田辺市は、人口増加率で 3 位、世帯増加率で 5 位（住宅開発などによる社会増が大きく寄与） ・平成 17 年から平成 22 年にかけての労働力人口の増加率は、関西（111 市）の中で 3 位、全国（813 市区）でも 55 位に位置。 ・第 3 次産業の増加が大きく「卸売・小売、飲食店」と「サービス業」で、7 割超が就業。 ・有効求人倍率は、全国や京都府に比べ低い水準で推移。有効求人倍率は 0.94 と、ハローワーク田辺管内では高い水準。一方で充足率でみると 2 割程度という状況。 ・過去 10 年間の市税収入をみると、固定資産税は比較的順調に推移。個人の市民税については、平成 19 年度以降は人口増にも関わらず概ね横ばいで推移（今後も大きな伸びは見込めない）。 ・市内総生産は、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて 2,000 億円を割り込む状況。平成 22 年度には 2,000 億円台に回復（サービス業、不動産業で生産額が増加。鉱業及び製造業では、伸び悩み）

<p>審議事項（農業部会）</p>	<p>○現状についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ■効率化について <ul style="list-style-type: none"> ・機械の共同利用は時期などの問題から困難、個人での購入では不採算という状況。 ・用地の集約化、農作物の集約化等による効率化の推進も、京田辺では難しい面あり。 ■消費の促進について <ul style="list-style-type: none"> ・買える場所がない、売る場所がない（＝農協を通じて以外に売る手段がない）。 ■農地の利用促進について <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化、しかしながら、貸さない（貸したくない）。このため、耕作放棄地同然。結果、農地としての復元が困難に。 <p>○各委員の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■消費の促進について <ul style="list-style-type: none"> ・規模（＝集客力）のある直売所等の設置、人の集まる場所での売場の確保などが必要。 ・観光客を呼び込む仕組み（立ち寄らせて、消費を促す方法等）を構築することが必要。 ・地元事業者（飲食店、スーパー、学校等）との連携による販促、ブランド化とPR戦略の構築など。 ■農地の利用促進について <ul style="list-style-type: none"> ・農地の利用促進に係る仕組みづくりが必要。
<p>審議事項（工業部会）</p>	<p>○担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者がいないということで廃業している事業者が多いが、「後継者がいない」という背景は実は継がせたくないなど様々。元気で魅力的な企業であれば継ぎたい人はいるはず。 ・京田辺市では企業経営者の後継者が交流する場がない。 ・同志社大学だけでなく、学研都市線沿線の各大学を含めた人材確保必要。 ・田辺高校とのつながりはあるが、学校側は継続・安定的に受けてくれる企業が少ないという認識。 ・人材育成、創業・起業支援の視点が重要になってくる。 <p>○製品・販路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元どんな企業があるかわからない。互いの理解が深まっていない。 ・特定の関連業種が少ない地域なので異業種での連携（テーマ型など）が重要。 ・コーディネート機能の一層の充実が必要。 ・テーマを絞ったピンポイントの商談会、展示会のほうが、参加者は少なくてもビジネスに繋がりやすい。 <p>○土地・環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設が無いため、出張者や来訪者は京都市内、大阪市内に宿泊している。ただし、ビジネスホテルだけでも、夜に食事をする場所、宴会する場所などが不足しているので、必ず利用するとはいえない。 ・バスのダイヤが不便で路線図もわかりにくい。バス停は暗くて防犯面で

	<p>も不安。会社でバスを出しているが、繁忙期に残業などがあると対応しきれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D-egg を卒業した企業の受け皿（立地できる場所）が必要。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災面で企業と市役所との連携は進めていきたい。 ・ 支援情報発信に課題がある。 ・ 特産品など、企業に向けても地域情報の発信が重要。
<p>審議事項（商業・観光部会）</p>	<p><観光></p> <p>○現状についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内には宿泊施設がない（宿泊施設であると同時に地元の人が集まる集客施設でもあったウェルサンピアの閉鎖） ・ イベントは結構あるにもかかわらず情報発信がなされていない。 ・ 観光資源は一休さんだけでは限界がある。 ・ 一休寺の道中に土産物屋がない。 <p>○各委員の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節を感じる、自然を感じる事が観光につながると思われる。 ・ ホームページについては、直接観光協会のホームページにアクセスする人は少ない。リンクを増やすなどの工夫が必要である。 ・ イベントをずらっと並べるのではなく歴史的なストーリーが必要である。 ・ 京田辺市の歩こう会の方々をお願いして名所、史跡を案内してもらうのも集客につながると思う。 ・ 今までのやり方をどうやって工夫していくかが重要（既存事業の再整理） ・ 既存のものをネットワーク化して情報発信できるような形のものにする。そして「一休さんひとやすみ」という形でやっていく必要がある。 ・ 農業と連携できるのではないか。 ・ バーベキュー場など、レクリエーションできる施設が必要である。 <p><商業></p> <p>○現状についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の各地域でずいぶん状況が違う。 ・ 新田辺の商店街では空き店舗が増えている。 ・ 商店街の取り組みは単発のイベントが中心で、継続的な取り組みが少ない。商店街にはイベントを行えるスペースも不足している。 ・ 三山木はまちは立派だが、人が通過するだけで賑わいが無い。閑散としてしまっている。 ・ 草内は商業施設がない。難しいかもしれないが307号線沿いも変わってほしい。 <p>○各委員の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同志社等の学生の文化活動と絡めて商店街で定期的なイベントができないか。 ・ 文化活動でいえば、三山木駅のロータリーは広いので吹奏楽のコンサートをやるのに最適だと思われる。 ・ 新田辺と三山木ダブルエンジンで発展を引っ張っていればいい。 ・ 人を集める形の工夫をやらないとますます分散していく。それぞれが競合しあって、相乗効果を持っていない。